

諏訪地方の経済概況速報

平成26年1月

(平成25年12月末調査)

平成26年1月25日

長野県岡谷市郷田二丁目1番8号

諏訪信用金庫
経営相談室

<http://www.suwashinkin.co.jp>

TEL 0266(23)4567

FAX 0266(23)8044

		実 数	前年同期比	
有効求人倍率【 11月】	諏訪公共職業安定所管内	0.98 倍	0.20 ポイント	
手形交換高【 12月】 (諏訪手形交換所扱)	枚 数	6,614 枚	1,012 枚	
	金 額	8,019 百万円	831 百万円	
	うち不渡り	枚 数	0 枚	△5 枚
	発生状況	金 額	0 千円	△2,084 千円
電力使用量【 12月】 (中電諏訪営業所管内)	電灯電力計	59,472 MWh	△10.6 %	
	高圧電力計	98,281 MWh	5.7 %	
	合 計	157,753 MWh	△1.1 %	
車庫証明取扱件数【 12月】(諏訪地方合計)		932 件	17.1 %	
新設住宅着工戸数【H25年4月～11月】(諏訪管内)		954 戸	29.3 %	

□本文は、当金庫の取引先約 130 社へのヒアリング調査による取りまとめ。

地域の概況

平成 25 年は、日経平均株価が 41 年ぶりの上昇率を記録し、円も対ドルで 34 年ぶりの下落率を示す歴史的な株高、円安となり、政府は 12 月の月例経済報告で、物価動向に関して「デフレ」の表現を 4 年 2 ヶ月ぶりに削除した。諏訪地方もようやく、自動車関連の製造業や建設業がけん引する形で、前年同月比で改善企業が増加している。また、増税前の駆け込み意識もあって、消費者がこれまでより単価が高い商品へ関心を移すなど、変化が見られる。有効求人倍率も 1 倍台に近づいた。ただ、企業間格差があり、増税後の反動減への懸念が強まるなど、不安定要素は続いている。

●製造業 「自動車業界の影響がある企業は堅調」

好調な自動車業界の影響を受ける輸送機械や一般機械は、順調に推移している。自動車部品関連の下請企業は受注量増加に伴い、残業や休日出勤対応が続いている。ただ、3 月までは高水準の受注見込みだが、4 月以降は不透明で、今後のコストダウン要請を懸念する声もある。金属部品加工は、企業によって業況はまちまちだが、技術力がある企業には、ここ数年なかった「正月明け納期」が見られた。その一方で、主要取引先が部品の海外調達を決めたため、売り上げ増加が見込めないとする企業もある。工作機械や専用機は、取引先の設備投資などで増加傾向になる企業の反面、売上の前年割れが続く企業があり、濃淡が現れている。精密機械は、情報機器関連などで動きもあるが、取引先によって受注量増減の波がある。総体的に、尖閣諸島問題の影響があった前年同月比では、改善している企業が多い。

●商業 「単価が高めの商品の売れ行きが増加傾向」

諏訪地方の12月の天候は、上旬前半は晴れたものの、それ以降は曇りや雨または雪の日が多かった。クリスマス商戦はヒット商品がなかったことなどで苦戦したが、年末年始商戦は休日が長いことなどで順

調だった。生鮮青果関連は高値で推移した。大玉の果実や高価なビールなど、単価が高めの商品の売れ行きが良くなり、「消費動向がこれまでよりワンランク上にシフトしている」という感触を持つ小売店が多くなっている。スーツなど、新生活に向けた商品も出始め、ホームセンターでは、例年より資材の売れ行きが良くなっている所もある。自動車販売は、諏訪地方の12月の車庫証明件数(軽自動車除く)が932件と、前年同月比で136件増加(17.1%)した。前月比では59件減少(△6.0%)した。新車は納車が4月以降になるものが出始めている。

●観光・サービス業 「スキー場が好調な滑り出し」

上諏訪温泉の宿泊人数は、総体的に前年同月比をやや上回ったが、昨年12月は中央道笹子トンネル事故の影響を受けていたことから、実質的にはやや減少したと見られる。忘年会予約は週末の特定日に集中し、総体的に宿泊客が減少し、日帰り客が増加傾向だった。一方、スキー場がオープンし、本格的な冬季シーズンに入った蓼科・白樺湖・富士見方面は、全体的に前年同月比で入り込みが増加している。今年は積雪量が多く、休日の天候が良かったことなどでスキー場への来場が増え、好調な出足となった。一昨年を上回る売上の施設もある。諏訪大社の参拝客数も昨年より増加し、県外参拝者への土産物販売も増加傾向だった。

●建設業 「新設住宅着工戸累計数は、近年の1年間の総着工数に迫る勢い」

市町村の12月の発注工事は建築工事4件、土木工事・下水道工事41件、その他工事13件の合計58件425百万円で、前年同月比で件数は18件増加、契約金額は205百万円(92.9%)の増加となった。また、県関係の12月の公共工事(地元業者受注分)は13件、129百万円だった。平成25年4月～12月の累計契約は131件4,178百万円で、前年同期累計比で件数は21件減少したが、契約金額は1,188百万円(39.7%)増加した。

民間工事は、諏訪地方の11月の新設住宅着工戸数が119戸で、前年同月比2戸の減少(△1.7%)となった。11月は伸びが鈍化し、増税前の駆け込み需要に一服感があるが、平成25年4月～11月の累計は954戸で、前年同期累計比で216戸、29.3%の大幅増加となっている。

●雇用 「有効求人倍率が県平均上回り、新規求職者数は今年度最少」

諏訪地域の11月の有効求人倍率は、前年同月を0.20ポイント、前月を0.07ポイントともに上回る0.98倍となった。昨年4月の0.68倍を底に上昇が続き、前年同期比では6ヶ月連続上回った。昨年9月以降は長野県平均と同水準か、上回る状況となっている。全国は1.00で、6年1ヶ月ぶりに1倍台を回復した。新規求人(全数)は1,443人で前年同月比194人増加(15.5%)した。要因別では「業務量拡大」「欠員補充」が増加している。新規求職者数は828人で、前年同月比320人減少(△27.9%)となり、今年度最少数となった。業種別の前年同月比の新規求人数は、その他のサービス業で61.4%、医療・福祉業で20.3%増加し、製造業で11.5%減少した。1件10人以上の人員整理はなく、事業主都合による雇用保険資格喪失者は48人で、前年同月比63人、前月より50人それぞれ減少した。

業種別動向

1. 電気機械

プリント基板 プリンター	業界全体としては低調な推移だが、セラミックスの受注が好調な企業もある。海外生産へ移行する流れだが、一部では在庫調整が終わり、増加傾向に転じている。どの程度続くか未知数の面もある。
コンタクター・ リレー	駆け込み需要などで受注が増加傾向となっている。受注状況が安定し、フル操業が続いている企業もある。

2. 輸送用機械

自動車	北米や中国向けの自動車部品は安定。昨年の上旬諸島問題時に比べ、前年比大幅に改善する見込みの企業がある。一方、メーカーの在庫が確保でき、今後は需給状況に応じた生産になる予想の企業もある。
ピストンリング・ シリンダーライナー 船外機	受注が安定し、残業などの対応で3月ごろまではフル稼働の見込みとなっている企業もある。 北米向け4ストロークエンジン(レジャー用)が増加傾向。欧州向けは依然低調、東南アジア向けは2サイクルエンジンが安定している。

3. 一般機械

工作機械・専用機	大手を中心に回復基調と言われる中で、取引先の設備投資が始まり、忙しいとする企業の反面、そのような感じは全くしないという企業もありまちまち。
搬送用機械 金型 ダイカスト	受注は堅調に推移しており、今後も同様な見込みとなっている。 総体的に横這い。自動車やバルブ関連には動きがある。 企業によってまちまちで、先行きの見通しも不透明感がある。

4. カメラ・レンズ

デジタルカメラ	全国のデジタルスチルカメラの11月の生産台数は587万台で、前月比6.9%の減少、前年同月比では28.6%の減少となった。11月の出荷台数は国内出荷60万台、海外出荷535万台の合計595万台で、前月比7.3%減少、前年同月比は25.7%減少となっている。スマホの普及で低価格のコンパクトの需要が急減している。車載用カメラは堅調に推移しているが、監視カメラ、FA検知カメラの動きは不安定。
レンズ	レンズ加工業界全体の受注量は伸び悩む。ライフルスコープなど新規企業からの受注で一定量を確保している企業もあるが、レンズ関連装置部品の受注は減少傾向となっている。

5. 繊維

ニット

端境期の中で、高級品の受注増が続いている。原材料、燃料の値上がり分を価格転嫁できず収益は悪化傾向となっている。

6. 食品

寒天

年末年始用が増加傾向だった。今季は好天で寒波があり、良好な状態。

味噌

ビニールやダンボールなどの資材価格上昇が、収益を圧迫する状況が続いている。

7. 製材

諏訪地方の11月の木造住宅着工戸数は104戸で、前年同月比4戸増加した。米ヒバや米マツなどの外材は昨年の2倍近い値段となっている。

8. 建設

公共工事

12月に地元業者が受注した県関係の公共工事は、諏訪建設事務所7件、林道治山工事関係3件、その他土木工事3件の合計13件で、契約金額は129百万円だった。平成25年4月～12月の累計では131件、4,178百万円となり、前年同期累計比では件数で21件減少、契約金額では1,188百万円の増(39.7%)となっている。

市町村の12月の発注工事は、建築工事4件27百万円、土木工事及び下水道工事41件350百万円、その他工事13件48百万円の合計58件425百万円で、前年同月比で件数は18件、契約金額は205百万円増加となった。代人や大工などの職人不足が続く状況で、受注調整をしている企業もある。

民間工事

諏訪地方の11月の新設住宅着工戸数は119戸で、前年同月比で2戸の減少(△1.7%)となった。前年同月比の利用関係別では、「持家」は25戸増加の97戸、「貸家」は26戸減少の19戸、「分譲」は1戸減少の3戸となった。平成25年4月～11月の累計は954戸で、前年同期累計比216戸、29.3%の増加となった。累計では年度末まで4ヶ月を残して近年の1年間の総着工数に迫る勢いとなっている。業界は3月までの完成工事に向けてあわただしい状況。ただ、冬場の仕事は確保しているものの、春先の新築やリフォームは大幅な減少見込みだったり、建築資材の高騰もあって反動減に対する懸念は強くなっている。

また、長野県内の11月の新設住宅着工戸数は1,200戸で、前年同月比2.4%の増加となっている。前年同月比の利用関係別では、「持家」が845戸で14.0%増加、「貸家」は268戸で14.1%減少、「分譲」は86戸で27.7%減少となった。

9. 商業

衣料	冬物が前年同期より伸びなかったものの、新年度に向けたスーツや新入学商品が売れ始めている。
食料品	前月に続き、野菜や果物の価格が高く、牛肉は安価で推移した。エビの品薄状態も続いている。
家電製品	電球だけでなく、電気器具ごと変えるなど消費者が、高い物は今のうちに購入する意識が見られる。LEDも好調だった。パソコンはXP廃止に伴う買い替え需要がある。
自動車	県内の12月の新車新規登録台数は、登録車が4ヶ月連続、軽自動車は6ヶ月連続で増加している。全体では前年同月比 2,165 台増加(29.7%)の 9,460 台で、4ヶ月連続増加している。
ホームセンター	恒例の年末の掃除や正月用品だけでなく、1万円程度のラインで比較的値段が高い商品が売れる傾向があった。

10. 観光

上諏訪温泉	総体的に前年同月比で宿泊客が減少し、日帰り客が増加傾向だった。平日で予約がない場合は休館とする施設が増加している。忘年会予約は週末の特定日に集中した。
蓼科・白樺湖・車山等	トンネル事故で大幅悪化していた昨年に比べ、総体的に宿泊客が増加している。スキー場の状態もよく一昨年を上回る施設もある。
下諏訪温泉	年末年始の県外参拝者へのみやげ物販売が昨年より好調だった。企業の忘年会が増加し、諏訪地区以外から受け入れた施設もあった。
諏訪大社	上社・下社合わせた二年参りを除く12月の参拝者数は約3万2千人。前年同月比では約3千人、11.3%の増加となった。

●企業からのコメント

- ・ 円安を背景に輸出で得た利益が、国内の中小企業や個人に還元されていないので、広く回復の実感は行き渡らない。(一般機械製造業)。
- ・ 出張で東京に行くと、取引先、飲食店、百貨店などの様子から、やはり景気が良い感じがする(電気機械関連製造業)。
- ・ 競合激化で来店客数の減少はあるが、単価が高い商品が売れた。全体的に消費動向は良くなっている感触(小売業)。
- ・ アベノミクス効果による補正予算と太陽光発電がらみの民間工事で、年間受注目標を達成した。代人と外注の特殊作業員が不足している(建設業)。
- ・ 10月の台風の影響で悪かった分は11月に増えたが、12月になって8月の花火大会中止がボデーブローのように効いている(旅館業)。